

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 41
Summer
2013

〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆新教授の挨拶(山田昌和)<1>
- ◆角膜グループの活動(中島史絵)<2~3>
- ◆アイバンクの紹介(明石優美)<3>
- ◆イベント情報<3>
- ◆平成25年度外来表<4>
- ◆新入局者の自己紹介<4>
- ◆フォトアルバム<4>
- ◆編集部からのコメント<4>

<執筆者: 括弧に明記 production: 岡田アナベルあやめ、堀江大介、仲嶋みずき>

新教授の挨拶(山田昌和)



山田 昌和

本年4月から、杏林大学の臨床教授を拝命しました。杏林アイセンターでは全くの新人であり、慣れないことばかりで右往左往しておりますが、しばらくの間、ご容赦頂きますようお願い申し上げます。

杏林アイセンターの臨床レベルの高さ

には定評があります。西東京の中核病院として広く大きな医療圏を支えているだけに、外来はいつも患者さんで溢れていますし、網膜硝子体・眼炎症などの分野では遠方から数多くの患者さんが受診されています。杏林で最初に外来をしたときに、不慣れなために午後7時までかかってしまいました。患者さんを待たせ過ぎたと反省したのですが、この外来終了時間、ここでは普通のです。外来に限らず、病棟でも手術室でもスタッフ、医員、研修医、皆が朝早くから夜遅くまで忙しく働いていることに感心させられます。私も一日でも早く、このペースに慣れて、他のスタッフに負けられないようにしたいと思っています。

私の専門領域は角膜を中心とした前眼部疾患であり、

アイセンターがこれまでよりもっと広い領域の眼疾患に対応できるよう幅を拡げることが私に与えられた役割と考えています。西東京には角膜移植を行う施設が少ないこともあり、前眼部領域を発展させていくことで、専門的医療の充実と地域医療への貢献を図っていく所存です。現在、眼感染症治療用の特殊製剤の申請やアイバンクの整備などを行っております。角膜移植患者の待機期間も長くなっていますので、輸入角膜を用いた手術体制も可能な限り早く整えたいと考えています。地域の先生がたに信頼され、多くの患者さんを任せてもらえるように少しずつでも実績を積み重ねていきたいと思っておりますので、どうか宜しくお願いいたします。

最新の眼科医療を実践することがアイセンターの最も重要な役割ですが、大学病院ですので教育、研究といった面も重要な機能です。教育、研究面でも多少なりとも貢献するとともに、平形教授をはじめとするスタッフ全員と共同して、アイセンターの更なる発展に励んでいく所存ですので、どうか宜しくお願い申し上げます。

略歴

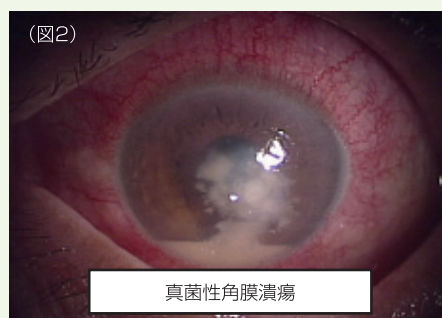
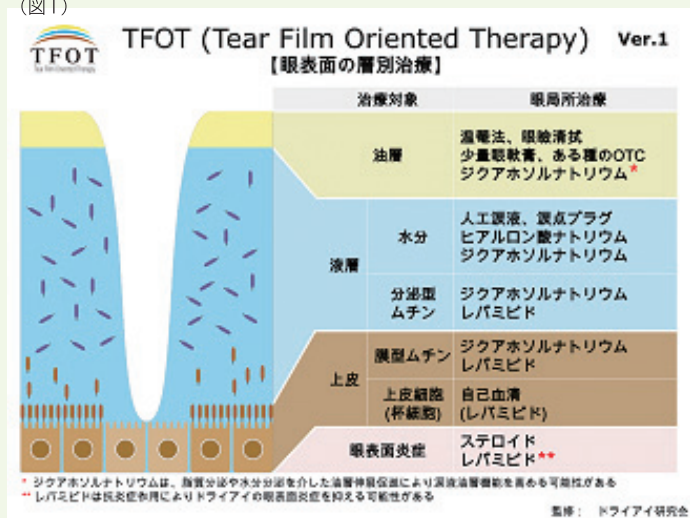
- 1986年 慶應義塾大学医学部眼科研修医
- 1989年 国立栃木病院医員
- 1993年 米国Duke大学アイセンター研究員
- 1995年 慶應義塾大学医学部眼科助手、講師
- 2003年 国立病院機構東京医療センター感覚器センター部長
- 2013年 杏林アイセンター臨床教授

角膜グループの活動(中島史絵)

角膜外来は火曜午後に診療を行っています。今年 3 月までは広島大学に異動しました井之川宗右医師が角膜班チーフとして活躍していました。また、2 ヶ月に 1 度東京歯科大学市川総合病院の島崎潤教授に難症例を中心に御高診頂いておりました。4 月からは東京医療センターより杏林アイセンターに着任しました山田昌和教授を中心に藤井かな医師、重安千花医師、中島史絵が診療を担当しています。

外来では主にドライアイ、アレルギー性疾患、感染性疾患、遺伝性疾患、円錐角膜等の診療を中心に様々な角結膜疾患に対し診療を行っています。

ドライアイ治療は、近年、涙液の質を改善することにより涙液の安定性を改善するジクアホソルナトリウム点眼およびレバミピド点眼の両者がドライアイ治療に加わりました。涙液層の層別治療 (tear film oriented therapy: TFOT) という疾患概念に則した本質的な治療 (図1)



方法への発展が期待されています (図 1)。重症例に対しては、症例に応じて涙点プラグ、血清点眼、涙点閉鎖術等も併用しています。山田教授の専門分野でもあり、臨床研究も進めています。

感染性角膜炎は近隣の先生方

より御紹介頂くことが多く、真菌 (図 2) やアcantアメーバ (図 3) に対しては保険処方できる点眼薬が限られているため、自家調整薬を併用し、治療を行っております。

現在杏林アイセンターでの角膜移植は、杏林アイバンクへのご提供眼による国内ドナーでの手術を行っており、昨年は 17 件の角膜移植手術を行いました。杏林アイバンクは日本で 53 番目にできたアイバンクであり、平成 15 年に設立されました。角膜移植希望の患者さんは角膜外来を受診して頂き、角膜移植の適応を判断したのち移植待機患者リストにエントリーしています。現在、手術までは平均 1 年前後の待機状態です。早急な手術の必要な方や予定手術を御希望の方は、現状では海外ドナーを併用している慶應大学病院や東京歯科大学市川総合病院を紹介しております。

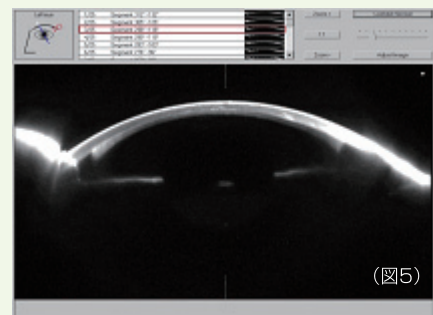
移植の方法も従来の全層角膜移植 (penetrating keratoplasty: PKP) の他にもより安全性の高い、また低 (図4)



侵襲な手術方法が行われるようになってきています。近年は拒絶反応のリスクを減らした角膜層別移植の考えに基づいた角膜内皮移植

(descemet's stripping automated endothelial keratoplasty: DSAEK) (図 4、5)、深層層状角膜移植 (deep anterior lamellar keratoplasty: DALK) 等の手術方法行う施設が増えてきており、当院でも昨年 3 件の DSAEK を行いました。

移植を行う上ではご提供者と医療者をつなぐ、組織移植センターのコーディネーターとの連携が不可欠です。



杏林アイバンクでは専属コーディネーターとして明石優美さんにご協力頂いており、その他組織移植センター所属のコーディネーターにもサポートして頂いています。献眼は杏林大学病院内の他、院外からのご連絡を頂くことがあり、眼球摘出は医局員の皆の協力のもと行っています。この場をかりて、御礼を申し上げます。

アイバンクの発足以来尊い献眼をして頂き、患者さんの視機能および生活の向上に役立っています。近年、アイバンクへのお問い合わせを頂くことも多くなり、眼球提供登録者数も少しずつではありますが増え続けています。

これからもよりよい医療を患者さんに還元できるように日々精進していきたいと思ひます。今後とも皆様の御指導、御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



角膜グループ

左から：高野洋平(北里研究所病院 眼科)、重安千花、山田昌和
藤井かんな、中島史絵

アイバンクの紹介(移植コーディネーター 明石優美)

はじめまして、移植コーディネーターの明石と申します。杏林アイバンクにて、角膜をご提供頂く際、提供して頂くドナーとそのご家族、そして移植を受けられる患者様の“橋渡し(コーディネーション)”を行っています。

杏林アイバンクは、平成15年10月10日に日本で53番目にできた2番目に新しいアイバンクで、西東京一帯で発生するドナーに対応しております。実際には、眼球提供の登録を受け、お亡くなりになられた方から善意で提供頂いた角膜を摘出・保存し、角膜移植を必要とする患者様へ斡旋する機関として活動を行って

おります。

アイバンク開設以来、多くの患者様の光を取り戻すべく活動を行っておりますが、提供件数が少なく、移植を待っておられる方が多いのが現状です。これからも、ドナーとそのご家族、また患者様の心に寄り添い、一人でも多くの方の光が戻るようこれからも先生方と尽力していきたいと思ひます。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

イベント情報

<OPEN CONFERENCE>

2013年8月7日(水) 18:30 ~ 場所:杏林大学病院外来棟10階第2会議室
「眼科医療の「価値」を評価する」 山田 昌和 先生 (杏林大学医学部眼科 教授)

2013年9月18日(水) 18:30 ~ 場所:杏林大学病院外来棟10階第2会議室
「米国における薬剤開発とベンチャー企業の役割」 窪田 良 先生
(Acucela Inc. Chairman, President & CEO)

2013年11月6日(水) 18:30 ~ 場所:杏林大学病院外来棟10階第2会議室
「角膜混濁症例の硝子体手術」 厚東 隆志 先生 (杏林大学医学部眼科 講師)

<第55回東京多摩地区眼科集談会>

2013年10月5日(土) 14:30 ~ 16:30 場所:杏林大学 大学院講堂
会費:1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)
「涙道疾患に関する話題(仮)」 杉本 学 先生 (すぎもと眼科医院 院長)

<第14回西東京眼科フォーラム>

2013年10月9日(水) 19:00 ~ 21:00 場所:吉祥寺第一ホテル8F 飛鳥の間
会費:1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)
「NTG:私的診療治療戦略」 吉川 啓司 先生 (吉田眼科クリニック 院長)

平成25年度外来表

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
AM						
スタッフ	岡 田	平 形	渡辺交	慶 野	山 田	井 上
紹介初診	今 野	横 田	厚 東	肥留川	松 木	柳 沼
再 診	井上、廣田、國田 厚東(黄斑)	鈴木、並木 柳沼、肥留川 山本(黄斑)	松木、今野、 横田、柳沼 山本(黄斑)	稲見<偶数週> 伊東、堀江厚東(網膜硝子体) 山本(黄斑)	渡辺敏、鈴木 濱、折原 吉川(小児)	吉野<奇数週> 堀江<偶数週> 大竹、久須見
PM						
専門外来	眼炎症 (岡田・慶野・ 渡辺交・肥留川・等)	網膜硝子体 (平形)	黄斑 (岡田・山本 肥留川・等)	眼炎症 (慶野)	糖尿病 (平形・勝田)	
	網膜硝子体 (井上)	角膜 (山田・重安・ 藤井・中島)	緑内障 (吉野<偶数週>・ 堀江・五月女)	緑内障 (稲見<偶数週>・ 堀江・村井)	神経眼科 (気賀沢<偶数週>・ 渡辺敏)	
	緑内障 (山口)	眼窩・眼瞼 (今野・柳沼)	水晶体 (渡辺交)	黄斑 (岡田・山本)	小児 (鈴木・濱・吉川)	

新入局者の自己紹介



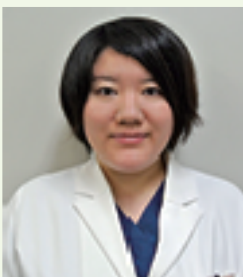
厚東 隆志

平成13年に慶大眼科入局後、大学院では網膜のバリア機能と血管新生をテーマに研究、臨床に戻ってからは専門とする網膜硝子体手術の研鑽に努めて参りました。4月より講師として赴任いたしました。が浅学非才の若輩の身、何卒ご鞭撻ほどお願い致します。

フォトアルバム



5月19日 野球大会にて
アイセンタース新ユニフォームのお披露目



富田 茜

4月より杏林大学病院眼科に入局しました。富田茜と申します。埼玉医科大学卒業後、初期臨床研修を杏林大学病院で行いました。子供の頃からの夢の眼科医、勉強し日々努力して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



重安 千花

平成14年に東京女子医科大学を卒業し、慶應義塾大学病院眼科学教室に入局をしました。平成18年に東京歯科大学市川病院に出向しました際は、こちらより出向中でした井之川先生、藤井先生と共に角膜疾患を学ぶ機会をいただきました。その後東京医療センターを経て、本年4月より非常勤医として勤務をさせていただいております。微力ながら角膜診療にお力添えをするとともに、一緒に学び続けることができれば嬉しく思います。どうぞよろしくお願い致します。

編集部からのコメント

アイセンターは電子カルテ導入期の山を越え、4月から新たな仲間を迎え張り切っています。特に、山田昌和教授が誕生し角膜疾患をはじめとする前眼部臨床に大黒柱ができました。重安先生も加わって進歩の著しい前眼部臨床の充実を目指します。また、網膜硝子体部門では慶應から厚東先生が講師として赴任しました。15年目に入ったアイセンターの臨床・教育・研究に新しい風を入れてくれています。病診連携の推進にも力を入れますので、今後ともよろしくお願い致します。(A.H.)